

【科目区分】大学院：教育実践開発コース科目  
 【授業科目名】集団づくりの道德論的アプローチ  
 【担当教員名】一色芳枝、太田佳光  
 【登録学生数】16

令和5年度 授業評価・授業研究報告

教育学研究科 一色 芳枝

## 1 授業概要

### (1) 受講者について

本授業は、教育実践高度化専攻の全てのコースの学生を対象とした後期の発展科目である。本年度の受講者は全員1年生であり、その内訳は、教育実践開発コース14名（内現職教員1名）、教科領域コース2名であった。また、受講者を実習先の校種別で見ると、小学校9名、中学校7名であった。

### (2) 授業の到達目標

学部卒業者については、「集団づくりに関する道德的理論を具体的な事例に即して説明することができる。」「理論背景に基づいて、道德科や特別活動の授業案、学校全体のカリキュラム作成等、実践的な取組がイメージできる。」である。

現職教員については、上記の内容に加え、「実践することができる。」としている。

### (3) 授業の内容

15回の授業を2名の教員で行った。前半は、主に道德理論とそれに基づいた集団づくりについて協議や演習を中心に展開した。後半は、道德科と特別活動を中心とした事例検討や指導計画の作成などを行った。

以下、特徴的な内容について述べる。

#### ① 学生の主体性を伸ばす工夫

第1回目の授業では、本授業の目的や内容について説明だけでなく、学生自身にも授業に対する目的を考えさせた。(図1)

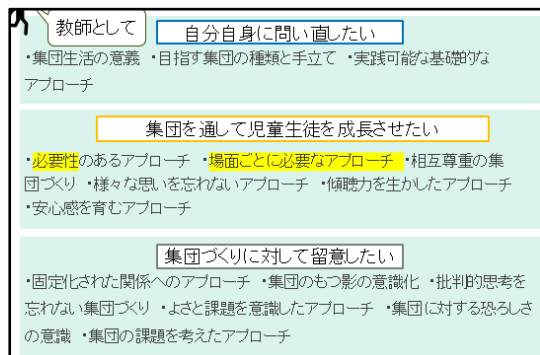


図1 提示用のスライド

これらの内容に基づいてその後の授業を構成した。また、時折スライド提示をし続けることで、学生の授業に対する目的意識の継続化に努めた。

#### ② 学生の疑問解決への工夫

授業後には、毎回小レポートの課題を与え、そこに学んだことや考えたことを自由に記述させた。すると、受講した学生が抱く疑問を知ることができた。可能な限り学生の疑問を大切にし、次回の授業内容に生かすよう工夫した。(図2)

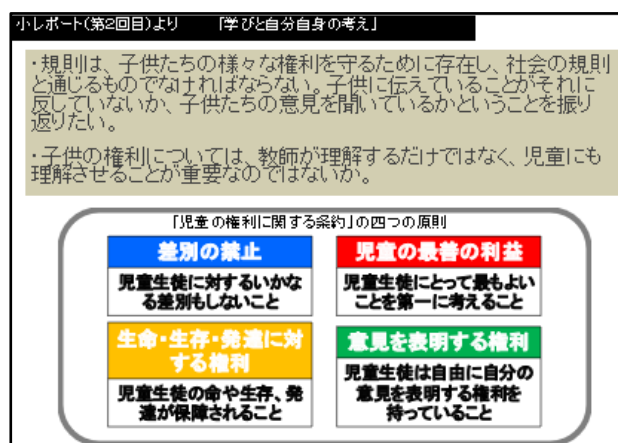


図2 授業のスライド

特に、学生の多数が同様に抱いた疑問については、同じ内容の授業を繰り返し行い、疑問解決に向けてじっくりと考える時間を設けた。さらに、少数意見でも必要に応じて全体共有を図ることで、学生の思考を広げ深めた。

#### ③ 理論を実感に変換する工夫

第6回第7回「集団づくりの実際」では、授業内容に連続性を持たせた。まず第6回で理想の学級集団について書籍や実践を基に理論付け、「自己有用感」について、具体的な姿で示した。次に第7回では、「自己有用感」について、グループワークによるS G Eの模擬授業を行い、学生自身が既存の学びと結び付けた。(表1)

表1 SGE一覧

【人間カラーコピー機】

明確な目的があり、協働することの必然性が生まれる。

【マスコットキャラクターを作ろう】

得手不得手関係なく全員が関わり、本音で話ができる。

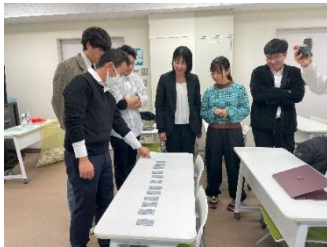
【Good & New】

前向きな会話を通して小中の円滑な接続を図る。



【I TO】

自他の価値観を比較し他者の考えを知る。



SGEの模擬授業を通じた学生の感想は次のとおりである。(一部抜粋)

- ・実際に体験する中で、友人たちの新たな一面を知ったり、関わりの少なかった人と話すきっかけになったりして、集団づくりにおいて高い効果を示すことを体感できた。
- ・本授業では、ほとんどの方が教育実践開発コースで、…少しアウェイ感を感じていた。しかし、様々な班のグループエンカウンターを行ったことで、あまり話したことがなかった方と話することができたり、思わぬ共通点が見つかったりと、輪が広がったように感じて安心したし、とても嬉しかった。きっと新しいクラスになった生徒は私が感じていたよりもっと強い不安を感じていると思うので、グループエンカウンターを行うことで、私が感じたような安心感を持たせることができるのではないかと思った。

④ 学びに夢中になる工夫

授業後の課題「発問を考える」に対する支援の一つとして、学生からの要望の下、外部講師の方の協力を得て授業外に勉強会を開いた。

この勉強会では、参加した学生の考えに対して、個別によい点と問題点を挙げ、そ

れぞれの疑問を参加者の対話によって解決していく流れとした。



短時間ではあるが、主体的に学びたいという学生の意思を大切にするこことで、本授業「集団作りの道徳論的アプローチ」の目的到達だけでなく、学ぶことの意義やその楽しさについても実感する場となった。

3 授業の感想

- ・学級経営において漠然と大きな不安や心配を抱えて授業を受け始めたが、声掛けや支援を積極的、日常的に行うことの重要性を学んだ。実習校でも教師の言葉掛けの様子を観察し、自分自身も実践したい。(学生：小学校採用)
- ・講義を通して、道徳科と特別活動をユニットとして考えて取り組むことも学んだ。(現職教員：小学校)
- ・履修前は、集団づくりや道徳について勉強できていない現状に危機感を持っており、焦っている状態だったが、授業を受けることで、少しだけ前進したのではないかと思った。(学生：中学校採用)

4 成果と課題

実務経験者による授業は、理論の中に実体験を織り交ぜたものとなるため、多様な事例を知ることができ、受講者は道徳的理論を具体的に理解することができた。また、実際に発問を考えたり授業案を作成したりする学習により、すぐに活用できる実践力も養った。さらに、連携実習校での各自の経験を生かした授業を展開することで、理論と実践の結び付けに効果があった。

課題については、外部講師を含む多くの講師が授業を行うため、内容の重なりがあったり連なりがうまくいかなかったりして、受講者自身を戸惑わせた。

本授業は、今年度で終了である。しかし本授業の内容は、教員となり学校現場に出た際に必要な力である。そのため、来年度からは各ゼミや道徳及び生徒指導関連の授業で学生に学ぶ機会を与える必要があると考える。